

細菌検査室の紹介

臨床検査科細菌検査室 石井 松子

細菌検査室は検査科内にある直接患者さんと接することのない検査室で、細菌の検出を目的とした部署です。

細菌は目に見えないため『危険』とか『怖い』というイメージを持たれる方もいらっしゃると思います。

検査室内ではいろいろな種類の微生物を取り扱っており、汚染された空気が検査室から外に流出しない様に部屋の気圧が陰圧に保たれる特別な設計がされています。また、空気感染が疑われる検体は安全キャビネットという特殊な作業環境内で検体処理を行い、その中の空気はフィルターできれいにしてから外気に戻していますので、感染源になることはありませんのでご安心ください。

細菌検査室の仕事は、患者さんから採取された喀痰や尿、便や膿など様々な検体を用いて、微生物を発育させて菌を増やし、いろいろな検査を行います。まず、患者さんの検体から検出された菌の種類を調べて、その菌に効果のある薬を検出し治療に役立つ情報提供を行っています。

検出された菌の情報などは患者さんの治療のためだけではなく、病院内の感染制御の為に病棟に発信し活用しています。



病棟別の菌検出率、それぞれの菌の感受性率、耐性菌情報などを公開し、院内の端末で共有することにより活用されています。

細菌検査室は感染症の適切な診断・治療においての役割りは大きいのですが、微生物と言う生き物を発育させ、菌液を作り、色々な薬と混ぜて発育するかを調べるのに最短でも3日くらいかかってしまいます。

塗抹検査を行う場合は、検体を直接ガラスに塗って、乾燥や染色を行い顕微鏡で観察を行うため2時間程度必要な場合があります。

しかし、近年では短時間で菌の検出が行える簡易検査が普及し、15分から30分ぐらいで結果報告が可能な検査項目が増え、臨床への貢献度はより高くなっています。

今年話題になり、大流行しているインフルエンザについてお話ししたいと思います。下に 2009 年 6 月からの当院での検出状況をグラフに示してあります。

12月15日現在で、A 型インフルエンザ陽性の件数は 1369 件(総検査件数 4220 件中)です。新型のウイルスか季節性のウイルスかは一般病院では検査できませんが、全国の発生状況から新型インフルエンザと思われます。グラフからお分かりのように 10 月から急激に増加しています。新型インフルエンザは感染力が強く、大多数の人に免疫がないため感染の拡大する恐れがあります。これから更に季節性の流行も加わり増加の傾向が予測されます。

発症した場合、およそ 7 日経過するまでは咳やくしゃみにウイルスが混じっている可能性があるため、感染の拡大を防ぐためにも外出を控えましょう。

【インフルエンザの予防策】

- ・室内が乾燥しないように気をつける。
(空気が乾燥しているとウイルスなどが浮遊するため、室内には適度な湿度が必要です)
- ・うがい、手洗いをする。
(うがいや手洗いをこまめに行うことによって体内への侵入を防ぎます)
- ・集団の中ではマスクを着用する。

自分自身で感染から身を守りましょう。何か質問、疑問などありましたら、細菌検査室へお尋ねください。

インフルエンザキット陽性件数 2009/6/1 ~

